

平成28年11月4日
於
府中市役所北庁舎3階第1・2会議室

第1回

府中市廃棄物減量等推進審議会会議録

府中市生活環境部ごみ減量推進課

第1回府中市廃棄物減量等推進審議会会議録

- 開催日時 平成28年11月4日（金）午後7時00分～午後8時42分
- 開催場所 府中市役所北庁舎3階第1・2会議室
- 出席委員 11名
宮脇健太郎会長、志水清隆副会長、吉川澄夫委員、谷澤ミツ子委員、
馬場利之委員、土方文男委員、松下達郎委員、松林健一委員、
山谷修作委員、吉田陸子委員、渡辺信子委員
- 欠席委員 2名
大堀隆康委員、武野純子委員
- 出席説明員等
間宮生活環境部長、佐々木ごみ減量推進課長、田代ごみ減量推進課長補佐、
桑田ごみ減量推進課副主幹、山下ごみ減量推進課3R推進係長、
中川ごみ減量推進課指導係長、佐藤ごみ減量推進課指導係主査、
山本ごみ減量推進課管理係主任
中外テクノス㈱松岡氏、石津氏
- 議事日程
 - 1 委嘱状の伝達
 - 2 市長あいさつ
 - 3 委員紹介・事務局紹介
 - 4 会長の選出
 - 5 副会長の選出
 - 6 諮問書の伝達
 - 7 会議の公開等について
 - 8 府中市のごみ行政の現状について
 - 9 計回改定にかかる基礎資料の作成について
 - 10 今後の進め方について
 - 11 その他

午後7時00分開会

○事務局 ただいまから、第1回府中市廃棄物減量等推進審議会を開催させていただきます。皆様、本日は大変お忙しいところ当審議会にご出席いただき、まことにありがとうございます。審議会の会長が決定されるまでの間、進行役を努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

まず、配付資料の確認をさせていただきます。

(事務局 資料確認)

それでは、お手元の次第に従いまして、議事を進めてまいります。なお、当審議会は議事録を作成するために録音させていただいておりますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。

次に、本日の会議につきましては、委員13名のうち、現在11名の委員にご出席いただいております。資料2の「府中市廃棄物減量等推進審議会運営要綱」第5第2項の規定により本日の会議は有効に成立しておりますことをご報告いたします。

【委嘱状の伝達】

○事務局 次第の1、委嘱状の伝達でございますが、本来ならば市長から委員の皆様お一人おひとりにお渡しするところでございますが、時間の関係もございますので、皆様の机の上に委嘱状を置かせていただいております。これをもちまして、委嘱状の伝達にかえさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

【市長あいさつ】

○事務局 次に、次第の2の市長あいさつに移らせていただきます。審議会の開催に当たりまして、府中市長よりご挨拶を申し上げます。

○市長 皆様、こんばんは。ご紹介いただきました、府中市長の高野律雄でございます。

本日はお忙しい中、また、夜分お疲れのところ、府中市廃棄物減量等推進審議会にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。皆様方には、日ごろから本市の廃棄物行政に多大なご尽力を賜り、また、このたびは、府中市廃棄物減量等推進審議会委員をお願いいたしましたところ快くお引き受けいただきまして、この場をおかりして厚く御礼を申し上げます。

さて、本市におきましては、現在第6次府中市総合計画の中で、ごみの減量や資源化を推進し、環境負荷の低い循環型社会を形成し、ごみの発生を抑制することを目的として、市民一人1日当たり50グラムのごみ資源物の削減などを目標に掲げて各種施策に取り組むことになっております。

具体的な施策の取り組みなどにつきましては、廃棄物処理法の規定に基づき、府中市一般廃棄物処理基本計画を策定し、本市の中長期的なごみ処理のあり方やごみ減量施策など、その基本的な方針を明確にし、ごみ減量や3R推進のための施策を展開しているところでございます。

本市では現行の一般廃棄物処理基本計画が前回の改定から5年以上が経過をしまして、現在の社会情勢などに適合した計画に見直す必要があることから、今回、本審議会を開催させ

ていただき、平成29年度末、来年度末までに計画の見直しを行う運びとなったものであります。

委員の皆様方には幅広い見地から、活発で忌憚のないご意見・ご提案をいただきまして、本計画の策定にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

以上、ご挨拶をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局 高野市長、ありがとうございました。

【委員紹介・事務局紹介】

○事務局 次に、次第の3の委員紹介・事務局紹介でございますが、今回は第1回目の会議でございますので、まず、委員の皆様におかれましては、順番に自己紹介をお願いしたいと存じますがよろしいでしょうか。

(各委員 自己紹介)

○事務局 ありがとうございました。それでは、次に私ども職員の紹介をさせていただきます。

(事務局 自己紹介)

○事務局 なお、後ほどご説明させていただきますが、今回は府中市一般廃棄物処理基本計画の改定に係る審議会でございますので、その改定業務を支援していただくコンサルティング事業者の中外テクノスさんに同席をさせていただいておりますので、あらかじめご承知おきください。

【会長の選出】

【副会長の選出】

○事務局 次に、次第の4の会長の選出と次第の5の副会長の選出でございますが、資料2の府中市廃棄物減量等推進審議会運営要綱第4第2項では、委員の互選となっておりますが、いかがいたしましょうか。

○委員 委員の互選ということですが、たぶん皆さん今日初めてお会いしているということで、互選するには難しい面があると思いますので、事務局のほうで案がございましたら、提案いただいてそれに一任するという形でいいのではないかなと思いますので、どうでしょうか。

○事務局 ありがとうございます。ただいま、委員より会長と副会長については事務局での考えとの発言がございましたが、ほかの委員の皆様、いかがでございましょうか。

(「異議なし」との声あり)

○事務局 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、事務局より推薦させていただきたいと思います。

まず、会長につきましては、前回の廃棄物減量等推進審議会におきましても見識が豊富であられる学識経験者の方をお願いをしている経緯があります。明星大学の宮脇先生におかれましては、最近まで近隣市の同じ審議会でも会長をされておられましたので、宮脇先生に会長をお願いしたいと考えております。

また、副会長につきましては、日ごろから自治会活動でごみ問題にご尽力いただいている、

自治会連合会から志水委員にご出席いただいておりますことから、志水委員に副会長をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(拍手)

○事務局 よろしいでしょうか。それでは、宮脇委員に会長を、志水委員に副会長をどうぞよろしくお願いいたします。会長、副会長は会長席、副会長席へどうぞお移りください。

それでは、お2人からご挨拶をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○会長 皆様方のご協力を得まして、今回府中市の廃棄物処理基本計画の改定につきまして、最大限努力していきたいと思っておりますのでご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

○副会長 より一層ごみを少なくするにはどうしたらいいかということを実際に皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、以降の進行は会長をお願いいたします。

【諮問書の伝達】

○会長 議事次第にのっとって進めていきたいと思っておりますけれども、まず次第の6になります。諮問書の伝達ということになっております。事務局より説明をよろしくお願いいたします。

○事務局 先ほど、会長・副会長を選出していただきましたので、ここで市長から会長に諮問書を伝達させていただきたいと思っております。

それでは、会長、市長、恐れ入りますが会長席の前にお移りいただきまして、諮問書の伝達をお願いいたします。

(市長から諮問書の朗読・伝達)

○会長 ただいま、市長より諮問書を受け取りましたので、皆さんにも事務局から写しを配付させていただきます。よろしくお願い致します。それでは、事務局より諮問書を朗読していただきたいと思っております。

(事務局 「諮問の趣旨」を朗読)

○会長 市長におかれましては他の公務がおありだということでございますので、これで退出されますのでご了承いただきたいと思います。

(市長退室)

【会議の公開等について】

○会長 それでは、続きまして議事次第に戻りまして続けさせていただきます。議事次第の7でございます。会議の公開についてでございますが、これについて事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局 「会議の公開等について」説明)

○会長 それでは、この会議の公開についてご質問またはご意見などございましたら、よろしくお願いいたします。

このような会議は公開が原則というのは、どこの自治体でも当たり前のことになっておりますので、いかがでしょうか。異議はございませんでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○**会長** ありがとうございます。それでは、事務局案のとおりに取り扱うということを決定的にしたいと思います。

【府中市のごみ行政の現状について】

○**会長** では続きまして次第の8に参ります。府中市のごみ行政の現状についてですが、これについて、今日は初回の廃棄物減量等推進審議会ということになっておりますので、府中市のごみの行政の現状について、事務局よりご説明していきたいということでございますので、これから事務局より報告していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○**事務局** 皆さんのお手元にはパワーポイントの、ここに映し出されている資料をそのまま資料としてご提示させていただいておりますので、ちょっと見づらい方もいらっしゃるかもしれませんが、お手元の資料と合わせてご覧になっていただければと思います。

今回は初めてということもありますので、まず府中市のごみの現状につきましては、これまでの一般廃棄物処理基本計画の成果と申しますか、達成状況をまずお話しさせていただくと、それから2つ目の大きな議題としては有料化後のごみの推移と。現在の目標である一人1日当たり50グラム削減の達成度ということをお知らせしたいと思います。

3番目といたしましては、第6次府中市総合計画の中で、府中市のごみ施策として挙げている、大きくは6項目ぐらいございまして、それも説明を簡単にさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、まず最初に、平成22年度に策定された府中市一般廃棄物処理基本計画の目標の達成状況ということでご説明させていただきます。

初めに、「10年間でごみ50%削減」についてでございますが、平成13年度のごみ量を基準として、平成16年から平成25年まで10年間で、ごみ50%削減を目標として施策を展開してまいりました。その間どういうことがあったかといいますと、平成16年度から平成20年度までの5年間でごみを1万トン減らそうということで、1万トンごみ減量大作戦というのを実施いたしました。また、平成18年度には、容器包装リサイクル法にのっとり、容器包装プラスチックの再資源化を確立するために、オレンジ色のダストボックスを、燃やさないごみの日とそれから容器包装プラスチックの日という排出方法を曜日によって使い分けをして出すということを実施いたしました。そして、記憶に新しいところでは、平成22年2月2日に、ごみ改革によるごみの有料化、戸別収集、ダストボックスの廃止を実施いたしました。

その結果、50%の削減目標に対しまして、約37%の削減ということになりました。この当時はごみ量ということで、「ごみ量」とは一体何でしょうとなるのですが、ごみ量というのは、家庭ごみと事業系ごみの燃やすごみと家庭系の燃やさないごみ、それから粗大ごみ、資源物を含まないものを「ごみ量」とうたっております。資源物が含まれますと、それは「総ごみ量」ということになります。この当時は、資源物は除いた「ごみ量」を減らしましょうという内容でした。その結果が先ほど申しあげたとおり、このところがごみ改革があったところですので、そこから37%減になりました。

続きまして、次の目標でありました、リサイクル率日本一というのはどうだったかという

ことになるのですけれども、まずは日本一という基準でいきますと、人口10万人から50万人規模でどのくらいかということになるわけですが、平成22年度が7位、それから4年連続6位ということの実績になりました。約240自治体を対象とした中での7位から6位という数字になっておりますので、決して低いとは思わない、上位にずっといるということでしたが、残念ながら日本一というところまでは届かなかったということになります。ちなみにですけれども、都内26市ではどうなるのでしょうかということで、4位、6位、5位、7位、8位、8位という順位。これは人口の多い・少ないも多少加味されまして、少ないほど高くなる等いろいろあります。そちらは参考までに26市中ということで掲載させていただきました。

一応、2つが大きな今までの計画の中でうたわれていた目標値に対してということですので、ご承知おきください。

続きまして、有料化後のごみの推移と現在の目標ということでございますけれども、ごみ有料化後のごみ量の推移ということです。ごみの有料化、戸別回収、ダストボックスの廃止によって、ここでごみ改革ということであります。

現在の目標は一人1日当たり50グラム削減ということになっています。それは、先ほど言ったごみ量ではなく、今度は資源物も合わせた全体の量を減らしていきましょうということを目指しておりますので、そのことを念頭に置いていただきたいと思いますが、まずここで、総ごみ量でこちらがごみの量なのですけれども、棒グラフを見ていただいて、ごみ改革のときに約14%総ごみ量が減らせた。先ほどのごみ量というのは一気に減らせたということですので。「総ごみ量」でいうと14%しかない。その後の総ごみ量を見ていきますと、表のとおりなのですが、ほぼ横ばい。出っこみ引っこみがありますけれどもほぼ横ばい。この間人口も増えていってはいますけれども、横ばいという状態ではあります。

次に、市民一人1日当たり50グラムの削減ということで、折れ線グラフのほうをご覧ください。こちらが一人当たりの1日の排出量のグラフになっていますけれども、やはりここで1回ぐんと下がりまして、そこで横ばいになると。ちょっと上がってまた下がるというのが今の1人当たりの現状でございます。

目標値ということになるわけですが、まずこちらが平成23年度の数値を基準値として平成26年度から29年度までの4年間でごみ50グラムを減らしましょうよという目標値が、645グラムから595グラムに減らしたいというのが目標値でございます。それで、現在はどうかということになるわけですが、645グラムに対して26年度、27年度の2年間で14グラム減を達成したという現状でございます。

この一人当たりのごみ量というのは、これまでは市全体で50%減らしていきましょうという目標だったわけですが、やっぱりこれですと人口の増加の有無にかかわらず、削減するということになっていましたので、本市においては、人口が増加傾向にあったわけです。そうしますと、一般的には人口の増加に伴ってごみ量が増えていくというのが定説です。そしてまた景気がよくなればごみ量が増えるということも定説となっております。またその逆も然りです、人口が少なくなれば、景気が悪くなれば、ということもあります。最近のごみの目標の立て方というのが、漠然と全体に減らしましょうよというものと、ちょっと他人事のような感じに捉えられてしまうということから、一人当たりで目標を定めましょうよ

ということで、今のこの目標になっているわけです。全体になりますと他人事のようになってしまうのですけれども、現実的な数字、一人当たりということになれば、一人当たりのごみ減量に対する意識の高揚を図るという意味で一人当たりというものに設定したわけです。そこではやはり、今後課題となるであろうリデュース、リユース、それから最終的にはリサイクルというようなところに持っていくわけですけれども、総ごみ量ということで、資源物を含めた総ごみ量で減らしていこうということになりますので、皆さんのさらなるご協力が必要であると思っております。

では、ここで何をしてきたかということでこれは進行中のものもごさいます。まずは主な取り組みの中で、集団回収というものを話ししていきたいと思っております。

これを積極的に推進するということは、行政回収量をまず減らしましょうということがひとつございまして、集団回収にはまだまだメリットもあります。例えば持ち去り対策の効果があるであるとか、地域コミュニティの活性化なども考えられまして、こちらについては後でまた奨励金という形でキロ10円の、26市ではトップレベルの奨励金を出しているところでございまして、自治会活動などに使っていただいて、どんどん進めていってほしいなと思っております。こちらごみ量なのですけれども、ちょっと減りつつあるということがわかります。主に減っているのは新聞なのですね。新聞がトントントンと減ってきている。そのほかはそんなに変わりがないということで、新聞の量が減っているということが1つの要因だということが言えると思っております。なぜ新聞かという、やはり最近では電子で見たり、新聞をとらないという家庭も増えてきているのかなというところですね。朝刊だけにしようとか、若者の層はまず新聞をとっている人は少ないなという印象は受けます。ただ、自治会の登録団体数を見ていただくと、自治会の登録団体数自体は増えています。288から317に増えているということになっていまして、合計でも増えて、ちょっと減ってという形で横ばいという形になっているので、決して機運が下がったということは言えないと思っておりますので、さらなる拡充をしていきたい。これはさらに言うと、ごみの総量には含まれないという利点もございまして、ごみ減量には効果的なのではないかと思っております。

次に、ごみ減量啓発活動事業ということで、どういうことをやっているかということでございまして、まずは皆さんに情報提供をしましょうということで、広報のほかにごみ新聞ということで「府中のごみ」というものを配らせていただいております。これは年に2回、全戸配布、皆さんに必ず配布するような形になっていまして、ごみの量であるとか、ごみの行方であるとか、それから費用であるとか、取組みについて載せてあるものです。

それから、各種イベントでの啓発事業ということで、福祉まつり、環境まつり、そういったいろいろなイベントに出向きまして、ブースを立てて、ごみの減量を呼びかけているところでございまして。また、リサイクルフェスタとかそういうことについては、小型家電の回収もやったり、少しずつイベントで啓発していこうということで取り組んでおります。

それから、今回委員の中にもいらっしやいますけれども、マイバッグ持参運動ということで、市内にあるスーパーの店頭に出向きまして、マイバッグクラブの方々と市の職員と、それから地域の方が連携して、レジ袋削減ということでマイバッグ持参運動を実施しているところでございまして。

それから各種コンクールということで、まず市のほうではポスターコンクール、ごみを減

らしましようというポスター、それから標語コンクール、それからマイバッグコンクールということで、各種コンクールを開催し、若年層、これからの次世代を担う子どもたち、それから大人も含めてなのですけれども、そういった面での啓発の一環としてそういうキャンペーン、コンクールに取り組んでいただきたいということで実施しているわけでございます。

それから、出張説明会ということで、ごみの説明会を実施しています。これは申し込み制で、各自治会であったり、それから学校へ出向いての出張説明会ということで、基本的にはごみ減量の説明、それから団体さんからこういうものを説明してもらいたいということであれば、それに応じて説明会を開催しているというものになります。

それからフリーマーケットの開催ということで、こちらにもNPO法人のリサイクル推進協会の方が今日委員としていらっしゃいますけれども、中心となって、これはリユース活動という観点で行っています。フリーマーケット、福祉まつりと、単独でフリーマーケットをすずかけ公園で行っているのですが、2回行っているところでございます。

それから、ここにいる皆さん、今日の委員の中にもいらっしゃる自治連さん、商連さん、ごみ対策推進協議会の皆さんの協力によって、年に1度、ごみ減量3R推進大会ということで決起集会みたいな形のことをやらせていただいているところでございます。

続きまして最後に、地域のごみ対策推進事業ということで、これはまず地域、府中市内に800人ほど推進員というのを設置させていただいて、日々市と町内のパイプ役ということで、いろいろなごみの啓発活動の周知をしていただいたり、またその代表として文化センターが市内に11カ所ありましてそこを圏域として11カ所、ごみ対策推進協議会ということで、今回会長さんにもおいでいただいておりますけれども、まずはエリアごとに自分たちでできることをやっというところ、いろいろなものの推進、減量を推進すると。それからごみ減量を推進するというところで活躍いただいております。

それと生ごみがまた重要で、生ごみ処理については、なかなか府中市でも頭を悩ますところでありまして、現在行っている取り組みとしては白糸台の地域ということで、一部自治会さんの生ごみを家庭用の生ごみということで堆肥化をしている実験をしているところでございます。おおむね1回やると16から18世帯くらいの方が参加していただいている、その町内には置けないのですけれども、別のところに持って行って堆肥化をするとどうなるかというのをやりました。その前身で学校給食の残渣を使ったモデル事業ということでやらせていただいた後の、第2弾という形で家庭ごみだったらどうなるのかということでやっているところで、まだ投入してからあまり経っていませんので成果物はまだできていません。

それから、こちらキューロという新たな生ごみ処理機の形なのですけれども、今回モニターさんとして参加されていた委員さんも参加していただいたのですけれども、市内では10名の方を公募しまして、80人の中から10人を選んだのですけれども、家庭での生ごみをこの箱の中に土を入れて、まぜて埋める、そして消すというような検証事業を行いまして、おおむね検証していただいた10名の方々の感想を聞きますと、燃やすごみの袋の量が減ったとか、やはり家族でやるということで、子どもへの教育にもなったし自分もまた再度そういった減量の勉強ができた。このような検証事業の結果を得られています。これも今家庭からと生ごみ資源の補助金の対象として指定させていただいておりますので、主に戸建ての方向けなのかなと思いますけれども、こういった検証事業から拡大していきたいというこ

とでやっております。

そのほか、食品ロスというのが最近の言葉では聞かれると思いますけれども、要は食べ残しであったり、食材を使い切っていないものを捨てるのか、そういったものをどうにかできないかと研究していきまして、こちらエコレシピという形のを市で作成しています。これは市民の方々の協力を得まして、食材を最後まで使い切りましょう、食べ切りましょうという内容で食材の使い切りをどうしたら、何をつくったらいいかということでいろいろな物を掲載しております。これはスーパー19カ所とか文化センターにも置かせていただきまして、意外とスーパーではなくなってしまったから追加してくれないかという形で好評を得ているということがありますので、また拡大につとめていきたいなと思います。

今度は処理的なところについてお話させていただきたいなと思います。

まず廃棄物運搬収集事業ということが主要業務となっております、日ごろ清掃車が走ってそれぞれ燃やすごみ、燃やさないごみ等々、紙ごみとかを収集しているということで、基本的にはルールに基づいて収集はしているわけでございますけれども、最近では中間処理施設が非常に厳しい状況で搬入物検査などを行って、不適合物があるとすぐ指摘を受けて指導されると、当たり前なんですけれども、そういった悪質な違反とかそういったものがあれば搬入停止をされますよという形で、搬入するほうもかなりシビアな状況で搬入していくということになっておりまして、今回委員さんとして参加していただいている廃棄物組合さんとは定期的にそういう対応をもって適正な搬入を心がけるというような啓発を行ったり、意見交換をしているところでございます。

それから、燃やすごみは多摩川衛生組合に入っていると。これは稲城市、狛江市、国立市と4市合同で燃やすごみを処理しているところですが、こちらについては基本的には燃やした後の灰が出ます。それについては現在東京たま広域資源循環組合というところで、これは二ツ塚、日の出町というところになりますけれども、全てエコセメント化しているということになっています。こちらについても、やはり搬入物に燃やせないごみが混入していたり、危険物が混入していたりしますと、大変リサイクルが困難になってしまうということで、焼却が困難になるということになっていきますので、そちらも要注意だなということで、適正な運営に携わるということでございます。

それから最後のリサイクルプラザ、府中市内の四谷にある工場ですが、こちらについては燃やさないごみ、それから粗大ごみ、容器包装プラスチックが入ってきまして、あとビン・かんですとか、ライター、それから有害ごみなども入ってきているところでございます。そういったごみを有価物の売却など適正な処理に努めているところでございますけれども、最近では容器包装プラスチック、ピンクの袋のごみの対応が悪くて、日本容器包装リサイクル協会のほうからA、B、Dランク、もっと下があるのですが、Dランクという評価になってしまいました。いろいろな物が混入していたり、容器包装率が悪かったりというようなことなんですけれども、リサイクルプラザでも適正な運営を心がけていまして、市民の方にも適正な分別の周知を再度徹底する。それから、プラザ内でもきめ細かな分別を行っているところにも資源化して流す。最終的にはプラザから出る残渣もリサイクルされていて、たま広域のほうに埋め立てているということは一切していません、

ここまで主要な事務事業ということでご紹介させていただきました。

○会長 ありがとうございます。ただいま府中市のごみ行政の現状について事務局よりご説明いただきました。それではご質問とかご意見はございますでしょうか。

○委員 各資料で有料化によってそこだけがガクッと減っているのは明らかなのですが、自分の搬出行動を思い返してみても、ダストボックスのあるとき有料化になって、それから現在と全く変わらないような、減量には努めていましたけれども、あそこで激しく傾斜が出ているということを市としてはどういうふうに、何に原因があったと、いいほうの原因です、評価していらっしゃるのでしょうか。

○事務局 まず府中市は、焼却場の問題が非常に大きくかかわっていた時代だったと思います。焼却場、いわゆる二枚橋衛生組合と多摩川衛生組合の2カ所でやっていたのです。それで、途中から1カ所になった。

そうすると、府中市全体のごみを1カ所に集めるということになりますと、相当な量の焼却量になってしまいまして、オーバーフローを起こしてしまうのです。要は焼却しきれないと。そうすると、もう減量するしかないということで、10年で50%削減ということを目指してきました、いろいろやってきたのですけれども、なかなかうまくいかなかった。ということで、まず要因があったのはダストボックスだろうということで、ダストボックスを外すこと、あれはブラックボックスだったということが言えるのかなというのがありまして、自分たちのごみだけではなくて、よその市町村のごみも捨てられていたようなこともあります。それをなくすことによって、まず循環型社会ということはやはりごみを減らさなければならぬという命題がありますので、ダストボックスのあったままでは絶対できないというようなことを、前回か前々回の廃棄物減量等推進審議会の答申をいただきました。

その結果、合わせて有料化と戸別収集をやることで大きな成果が上げられるということが計算上わかりましたので、もう有料化というのを各市町村行っているわけですし、今もうやっていないところは4市くらい、もうやることは決まっているということもありますが、府中市も遅かったのですけれども、何とか1カ所の焼却場でごみ処理が済むようになりましたし、そういった面では皆さんの分別意識が向上したということもございますので、我々としては大きな成果だったと捉えております。

○委員 もっと身近な例で、例えば有料化、お金を出して袋を買うわけですよね、なるべくお金を出して使うものを少なくしたいというような心理も働いたということによろしいでしょうか。

○事務局 もちろん市民の皆様方の努力もあると思います。やはり、ごみにお金をかけるのかという意識でやられる方もかなりいらっしゃいますので、まずごみを出さないような入り口から、買い物をするときから考える人も多くなった、意識が向上したのかなと。

○委員 あそこだけ、激しく傾斜しているところに、これからの減量化のヒントが隠れているのではないかと今お伺いしたのですけれども。

○委員 ごみをなるべく出さないようにすることに1番気を使っていますので、買うときに、大根の葉っぱがついていると葉っぱも食べたいけれどもとるだけで処理はできないなということになると、葉っぱのついていないほうを買って、皮は煮て食べたりとかしているのですけれども。

あと、プラスチックになるのかならないのかという、ラップみたいなものがかかり今多い

ですよ。プラマークがついていなければピンクの袋に入れてはいけないのだと思うのですが、結局それは燃えるごみに入れますよね。結構皆さん小さく丸めて、セロテープとかガムテープでみんなとめてしまって、ピンクの袋に入れているのもある。だからそれは違うのだと教えてあげてもやはり小さく丸めたからとか、袋の中に袋を入れてしまって、閉まっているからいいのだとか。そういうのが見てないうちにいろいろなことはそうなのだと思いますけれども、なかなかそういうところが広まっていかないし。

どのくらいごみ袋を買っているかちょっと計算してないのですけれども、SSのポリ袋しか買わないのでそこに入れているのです。これが1週間にいっぺんか1週間半に1回くらいで生ごみを出しているのですけれども、40リットルで80円もするようなオレンジの袋を平気でそれを買って出している人もいるし、お金いくらかけてもいいんだという人もかなり市民にはいらっしゃるので、なかなか減量というものは難しいかなと思います。

○会長 市民の立場からご意見をいただいて非常にありがたいと思います。

○委員 マイバッグでレジ袋をもらわないようにしましょうということで、かなりやっているのですけれどもやはり減らないですね。マイバッグは傘の捨てられていたものから始まっているので、ボックスのときに傘とか捨ててあっても、ごみ減量課の方が置いておいてくださったのを市民で何とかしようというところで、洗ってミシンをかけて、リサイクルフェスタとかがあったときに皆さんに最初はあげていたのですけれども、ただあげていたのではあれだから、つくる工程である程度、手まではつけておくのですけれどもそこだけ縫ってもらって、ミシンをかけてもらうと、自分でつくったのだという認識が出て持ちやすいというか、結構小さいお子さんなども小学校3年生くらいでまだミシンやったことないというお子さんなどもいて、楽しんで縫ってくださるのですけれども、なかなか広がらないと。かなりやっているからかなりバッグはみんな持っているはずなのだけれども、なかなか使っているの見かけないねというところで悩んでおります。

○会長 どの自治体もマイバッグもやっていらっしゃるということで、非常におもしろく聞かせていただきました。傘の話とか初めて聞きました。

○委員 そうですか。でも府中市は始まったのは遅いのですよね、武蔵野とかのほうが早くて、こういうのをやっているよというところから始まりました。

○委員 目標の値のごみ量のほうは総トン数だったり、リサイクルの減らしましょうというのは一人当たりだったり、一体単位は何ですか。例えば市民の方が広報でそういうのを聞いたときに、例えば7万トンです、5万トンですというのは全く自分の身近な数字、単位ではないので、身近なものに感じられない。一人当たりという尺度が一番今後進めていく上でいいのではないかなというのが1つです。

それと、府中市は何のごみが多いのですか。もっと上手に減量されているどこかベンチマーキング的に、全国で非常にうまくやっていらっしゃるようなところが、例えば燃えるごみを、今燃えるごみが一番圧倒的に多くなっていますけれども、そこが非常に少ない、減らせてきている、ではその政策はどんなことで減らしてきたのかとか、その辺を何か調べて教えていただいて、こういう審議会の場で皆さんに開示していただけたら、非常に参考になるのではないかなと思います。

○会長 ご意見ということでよろしいですか。

○委員 ちょっと今のお話を伺っていて同じような質問をしようと思っていたのですが、やはり社会情勢を踏まえてということで計画の策定を今回行われているので、特に生活のスタイルという近隣の自治体での排出の状況等の昨年の状況と比較みたいなことから、いいとこ取りみたいなものがもしあればそれを使って、計画の策定の見直しの際に利用させていただくとか、そういうことに取り組んでいる方をお招きしての情報交換させていただくとかするのがいいのかなと思って、半分感想ですがちょっとお話しをしました。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

市のほうからコメントがあれば。

○事務局 今委員さんがおっしゃられたとおり、今現時点では一人当たり50グラム、要はたまご2個分といった目標に切りかえて行っているところですが、今回そういったことについても、廃棄物減量等推進審議会の中で、こういうものがあるのだというようなところでご議論いただけるとすごく助かるなと思います。

府中市では生ごみが圧倒的に多いわけで、燃やすごみの量、大体3万7,000トンです。全体のごみ量が5万8,000トンくらいです。そのうちの生ごみを半分とすれば、かなりの生ごみの量なのだということがわかると思うので、やはりその辺が1つ課題だということ、たぶん皆さんはもうおわかりなのかなということでは。

先ほども生ごみの紹介がありましたけれども、そんなところで身近にできるごみ減量というのがまず何かというところを、横ばいというところで説明させていただいたというのが、市の施策にも意外と限界があるのだなと。例えば有料袋代を倍にしようとか、そういう施策になればこれはまた突拍子のない話になると思って、それで減量ができるかという、先ほど委員さんがおっしゃったように、お金を出せばいいのしょうという話になるので、市としてはそういう話はやはり皆様がどういったことで取り組んでいただけるかというところをここで審議していただければなと思います。よろしく願いいたします。

○事務局 もう1点、ごみの内容の関係でございますけれども、これにつきましては今回組成分析ということで、後ほどまたご説明をさせていただきますけれども、細かい数字が出てまいります。その説明の中で府中市のごみの傾向というのは、はっきり言えば生ごみが多いというのが事実なのですけれども、そういったものが出ています。

あと、他市の状況ですとか、いいとこ取りという話もございましたけれども、その点につきましてはいろいろなところをたくさんやっているコンサルティング会社の方もいらっしゃいますので、そのあたりからも情報をさまざまいただきながら、皆様にご紹介をさせていただいて、あと他市ですらにいいものがあるということであればそのあたりも我々の中で研究をさせていただいて、ご提示をさせていただく中でご議論いただければなと思っておりますのでよろしく願いいたします。

○委員 府中のごみという資料をホームページにお載せになっておられますけれども、これを拝見しますと、コストの話なのですけれども、キログラム当たりの可燃ごみの処理費が結構高いですね、65円という。ほかの多摩の自治体よりちょっと高めだなという、このことへの理解の仕方なのですけれども、今、多摩川衛生組合が出てきましたけれども、この負担の中で、固定的な部分というのはかなり大きいのかなと私、思ったのですね。

固定的な負担の比率というのがまだ把握していないのですけれども、例えば人口割比率が

非常に高く、ある程度大きいとなりますと、府中市の場合には人口が割と多いのですよね。

そういうことで、固定的な分担金がかなり膨らむところ、ごみが減量しているということでもキログラム当たり65円という、他の自治体ですと40円台というところもあるかと思うのですけれども、かなり高めに出ているのかなと推測したのですけれども、この点はいかがでしょうか。

○事務局 この辺につきましても、多摩川衛生組合に私ども後から入ったという経緯がございますので、やはりもともとあった施設への負担ですとかが他市より実際多いという状況がございますので、恐らくその金額がある程度はね返って来ているのかなと思っております。

ただ、今後、加入してからもう10年程度たっておりますので、ここである程度負担分、要するに他市よりも多い負担分については清算できてきておりますので、今後その分が減ってくる和我々も考えておりますから、そういった意味では恐らく1人当たりの単価にもはね返ってくるのかなという理解ではおります。

○委員 なるほど。もう1つは、そういう後発の参加なのでちょっと高くなっているのかなと思ったのですけれども、やはりそういうことがあるわけですね。

○事務局 そうですね。

○委員 わかりました。

○会長 ほかはいかがでしょうか。ご質問またはご意見などございましたら。

○委員 もう1つ質問させていただいてよろしいですか。

組成分析の話が先ほど出ましたけれども、家庭からの可燃ごみの中でのリサイクル可能な古紙の比率は大体どれくらいですか。

○事務局 湿ベースですけれども、およそ紙類で11%くらいなのですが、その他家電とか少し入っているので、私は、おおむねなのですけれども、20%弱くらいだと思っております。ただ、組成分析は、やる時期によって多少ずれが出てきてしまうので、平均的に言いますと、全国というか市町村レベルでいうと大体20%くらいがいいところなのかなと。そのうち紙類といっても、本当に再生できる紙はどのくらいあるのかということになると、やはり10何%くらいとなっていて、例えば感熱紙だとか、そういったものも紙類になってしまうとあれなのですけれども、資源系としてはやはり10数%くらいが妥当なのかなと。

○委員 わかりました。随分低いですね。大したものだなと思いますけれども。

○会長 ほか、いかがでしょうか。

○委員 市長さんの挨拶の中にもありましたけれども、上位計画で府中市総合計画があります。あと、環境基本計画も上位計画の中に入っていますけれども。環境基本計画のほうでの環境目標統合化ということで、生物多様性であったりとか、あと地球温暖化の問題とかといったことも廃棄物の問題と一緒に循環型社会の実現とセットで考えるということになっておりました。

キエーロはまさしくそういうことを、実際に市民一人ひとりが実現していくためのすごく有効なツールだなと去年利用させていただいて思ったのですけれども、そうなりますと、今回の基本計画の策定に当たっても、そのベンチマークとして、例えば地球温暖化に対しての一人ひとりどれくらいの貢献ができるかとか、あとは自然とのふれあいの場等々ですとか、生物多様性に対してどういう貢献ができるのかとか、そういったこともこれまで廃棄物計画

の中では目標として使われてこなかったような部分もぜひこの機会にベンチマークとして取り入れていただければなということをおもいました。

これからの検討の中でそういった話ができればいいかなと思った次第です。

○**会長** ほかはいかがでしょうか。

今日は1回目ですので、資料も分厚い冊子とか入れていますので、かなり読み込まないと新しい方針とか皆さんの中に意見も出てこないと思いますので、少し先に進ませていただいて、最後のほうでまた何かありましたら質問していただきたいと思います。

【計画改定にかかる基礎資料の作成について】

○**会長** では、続きまして次第の9に移りたいと思います。9は計画改定にかかる基礎資料の作成についてとなっております。事務局より説明をよろしくお願いたします。

○**事務局** それでは、次第の9、計画改定に係る基礎資料の作成について、事務局より説明をさせていただきます。ここでは、お手元の資料6と資料7を使いたいと思います。

まず、資料6をご覧くださいなのですが、これは平成22年度に策定した現行の計画の冊子でございます。そして、今回はこの冊子をつくり直しますという作業です。まずはこの点をご確認いただきたいと思います。

この冊子でございますが、大きく分けると前半、後半に分かれております。前半が計画そのもの、後半、これは71ページと書いてあるページの次に青い紙が挟まれていて資料編と書いてあります。後半は資料です。前半は計画、後半が資料という形になってございます。

この資料編と書かれた紙の次のページに、資料編の目次がありますが、こちらをごらんいただきたいのですが、上の方から、資料の1が市民アンケート調査の概要とか、資料の2、組成分析調査、1つ飛んで資料の4、平成17年度策定の一般廃棄物処理基本計画の評価シートなどとなっております、ここでは市民の要望をアンケート調査した結果でありますとか、家庭等から排出されたごみの中身を分析した結果ですとか、前回の計画の達成度を評価した結果、こういったものが資料の中に含まれております。そして、これらの資料から見える傾向などを抽出いたしまして、冊子前半の計画にそれを反映しているという構成になっているということです。

そこで、今回この計画を改定するに当たりましては、この冊子と同じようにまず冊子後半に当たる資料づくりから始めることが必要と事務局では考えまして、現在、計画改定に係る基礎資料づくりということで、事務局のほうで着手させていただいているという状況でございます。本日の段階では、まだこの基礎資料は完成していませんが、その途中経過の一部をご紹介させていただきたいと思います。

お手元の資料7をご覧くださいと思います。この資料、全部で18ページありますが、この資料1ページから11ページまでが現行計画の評価となっております。資料6に書いてある施策についての評価を、事務局でまず自己評価したものの一覧になってございます。

その後、12ページから16ページまでは、市のほうでこの9月に、市民アンケート調査というものを実は実施をいたしました。2,000件、無作為抽出で市民の方にご協力いただいたということなのですが、その速報、中間の集計ということになってございます。

さらに17ページ、18ページ、最後の1枚、裏表ですが、市が昨年12月に行いました、

市内各家庭等から排出されましたごみ袋の中身を調査したものの、組成分析をしたものの概要でございます。

この3つから成り立っております。これらの資料はそれぞれ途中経過、速報、概要ということでございますので、確定したものではありませんので、今後修正等が入る可能性はあるのですが、あくまでも作成中の資料の途中経過としてご覧いただきたいと考えております。

いくつかの部分を説明させていただきたいと思いますが、まず、2ページをお開きいただきたいと思います。現行の計画、目標は3つ掲げられておりますので、①②③ということで3つ目標が書いてあります。ここの進捗につきましては、先ほどの府中市のごみ行政の現状の中でも一部触れられておりましたが、目標の「①ごみ50%削減」でございますが、真ん中あたり、実績と進捗評価というところを見ますと平成25年度のところに下線が引いてございます。25年度で37.1%の削減ということで先ほどの説明と同じですが、37.

1%にとどまりましたので残念ながら50%には届かなかったということで、未達成という評価になってございます。その下、2つ目ですが、リサイクル率日本一の実現につきましても、先ほどと説明が同じなのですが、人口規模の近い約240団体のうちで、当市は近年ずっと6位を維持しているという状況がございます。これも決して悪い数字でないとは思いますが、ちなみに1位は近ごろずっと小金井市がとっておりますが、ポイントとしては10ポイント近い差をつけられて、1位と6位ということでございます。残念ながら日本一は実現をしてございません。なお、この目標2の一番左のところ内容というところを見ますと、

「リサイクル率を平成25年度に55%にすることを目標とし、同規模の都市内におけるリサイクル率日本一を目指します」ということが書かれていますが、直近の日本一であります小金井市のリサイクル率を見ますと、「1位小金井市49.2%」ということになってございます。49%くらいで日本一ですので、府中市が設定していた55%という数字は、少しハードルが高過ぎたということが言えるのかもしれないと考えてございます。

今後この方向性を考える上では、仮にこの方向性を維持すると考えたとしても、このあたりのことは少し考慮に入れる必要はあるかもしれないと考えてございます。

続きまして、ちょっと飛びます。13ページを見ていただきたいと思います。

今度は市民アンケート調査の途中経過になりますが、13ページ市民アンケートの中に問2です。「以下の品目について分別に困っていることはありますか」という設問があります。そして、そのページの右側を見ますと、燃やすごみからペットボトルに至るまでたくさんのグラフが掲載されてございますが、これらのグラフ全体的に見ますと、1番から8番まで指標があるのですが、どのグラフも一番左の項目1というところだけかなり突出して棒が高いというグラフの形をしていまして、それ以外はあまり棒が高くないという感じです。そして、その一番左の棒が高いこの項目の1は何かかという、「困ることなく分別できる」ということを意味していますので、大半の品目におきましては、市民の皆さんは特に分別には困っていないということがまず言えるかと思えます。

ただし、このグラフのうち、2つだけちょっと形が異なるものがありまして、一番上、真ん中と右です。燃やさないごみと、容器包装プラスチックです。これら2つについては、実は項目1以外にも棒が高くなっているものが幾つかございます。これら内容を見ますと、

「どの分別区分に該当するかわからない」とか、「手間である」とか、「どこまで汚れをと

「つたらよいかわからない」などということがございますので、この2品目に関しましては、分別に難しさを感じている市民の方が多いということは、恐らく言えるのだろうと考えております。

このあたりからヒントを得て、次の計画にどのように対応していけばいいのかというのを考えるということもあるのかなと考えております。

次です。17ページをごらんいただきたいと思うのですが、このページは組成分析調査の結果の概要を示しているページですが、17ページ左側①のところに燃やすごみというのがありますが、その文章を読みますと、「燃やすごみは厨芥の占める割合が増加傾向にあります。」ちょっと飛ばしまして、「また、厨芥については水分が多く含まれていることが考えられます。」ということから、分別の徹底やごみの水切りを行うことで、さらなる減量の可能性がありますというヒントもここから読み取れるのかなということなのです。

また、この「厨芥」という言葉ですけれども、食べ残しを含む生ごみということもございます。先ほども出てまいりましたが、最近では食品ロスというキーワードがよく言われておりますが、この食品ロスにつきましては、前の16ページの右側に問11というのがございます。問11は食品ロスについて市民の皆様アンケート調査をしたところでございます。問11の結果を見ますと、「食品ロスが問題になっていることを知っている」とか、「食品ロスについて今後はできることをやっていきたい」とアンケートに回答していただいている市民の皆さんが多いということもございます。食品ロスへの関心が高いということと、先ほどの厨芥の比率が増加傾向ということがこの結果からは読み取れると思いますので、食品ロスというものをキーワードに何か考えていくということもあり得るのかなということも読み取れるのかなと思います。

現在事務局ではこのような施策の評価、市民アンケート、組成分析、これらをもとに計画改定に係る基礎資料づくりというものを進めてございます。本日はその一部のご紹介にとどまりましたが、次回以降の審議会ではある程度完成した基礎資料を提出させていただいて、その資料から読み取れることなどもご紹介をさせていただきたいと考えてございます。

委員の皆様におかれましては、今後開催させていただきます、第2回以降の審議会におきまして、事務局から提出をさせていただく資料などをもとにご議論をお願いいたしまして、新たに改定する計画に対するご意見等を頂戴したいと考えてございますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

○会長 ありがとうございます。それでは、全部ではなかったのですが、資料についてご紹介いただきましたので、ご紹介いただきました内容につきましてご意見また質問などございましたらよろしくをお願いいたします。

○委員 ごみが全部家庭ごみではなくて、事業をやっている方のごみも全部入っているのですか。

○事務局 このグラフなのですが、緑のところが燃やすごみの量なのですが、事業系は燃やすごみとあと一部少量排出の事業者も入りますけれども、基本的には多摩川衛生組合に行く事業系のごみは入っています。ほかの不燃ごみとかそういうプラスチック類は産業廃棄物になるので、基本的には入らないということです。

○会長 いかがでしょうか。

○委員 今日初めてなので、どこまでどういう意見を言っているかということは悩むのですけれども、これから項目ごとの議論のたびに意見が出されたいなと思っていますけれども。建設関係の立場から考えて、新しいマンションを建てる時にはリサイクルができるような、先ほど言った生ごみを肥料にできるような、そういう施設を府中市では新しいマンションの廃棄物が出て、そこに必ず捨てていて、みんなが活用できるような形になって。建設をスタートする段階でできることがあったらいいなと。

あとは下水もだいぶ府中の下水というのはほとんど100%東京でもトップクラスの下水道になっていまして、ディスポーザーも今許可されているのがどうかということもありますけれども、最近ディスポーザーを許可している市町村も増えているので、ディスポーザーを使うともともと生ごみが出なくなる。そこら辺も下水道処理の容量によってはここを考えるとすごく生ごみ、圧倒的に減りますから、それを府中市である程度推進して、補助金を出してでもそういうものをつくっていくとか、そういうところでだいぶ減るのではないかなという意見があります。次回以降、項目ごとに検討させていただきたいと思います。

○会長 ほかはいかがでしょうか。

先ほどご紹介したように、まだ1回目でまだ資料を我々委員も読み込んでいないところもありますのでもう少し、資料7について先ほどご紹介があったように、今後まだ修正とか完全確定版ではないということですので、読み込むことが必要かなと考えていますのでよろしくをお願いします。

それでは意見が今まだないようでしたら、今後この資料を作成していただくということで、また随時新しい資料を出していただいて、チェックしていきたいなと思います。

いかがでしょうか、この件についてはよろしいでしょうか。

【今後の進め方について】

○会長 それでは、次第の10、今後の進め方についてご紹介いただきたいと思います、よろしく願いいたします。

○事務局 今後の進め方ということで、先ほども複数の委員からもご意見をいただきましたが、そういう細かな課題といいますか、題によっていろいろな意見を出していただけるのかなというような期待を持っております。そのときにはよろしく願いしたいと思いますが、資料の4番をちょっとご覧いただきたいと思います。

これは会議の日程等ということですが、本日が第1回目ということで、11月4日金曜日においてまず1回目を今日とり行わせていただきました。先ほどいろいろ公開のことですとか、いろいろなことを決めていただきました。

次回以降なのでありますが、まず次回については2月を固定したいかなと思っています。それから、事務局から基礎資料をお示するというような形になるかと思いますが、次回以降はそういった細かな点について諮問事項について審議をしていただければと思います。

この会議はおおむね3カ月に1回くらいの割合で開催をお願いしたいと思っています。全6回構成ということで、年度内は2回、29年度が4回ということでお願いしたいのですが、まず次の2回目は2月ということでお願いいたします。それ以降、一応なのですが3回

目が5月、4回目が7月、ここ2カ月になってしまいますけれども、それから10月と。それで最終的に、平成30年の1月に、市長のほうに答申という形で府中市廃棄物減量推進審議会の考え方を答申していただくというのが最終になります。

そのほかの内容につきましては平成30年度、初年度から有効な計画にしてもらうところで、市民の皆様からも意見を聞くという機会がありまして、それが5回と6回くらいの間にパブリックコメントということで、計画とか施策の何かがあれば、市民の声を聞くというルールがございますので、ここでパブリックコメントなどを行っていきたいということです。

その後、答申を得て市議会にもお諮りをするという形になりますので、よろしくお願ひしたいなと思います。なにとぞ忌憚のない意見、それから建設的な意見をよろしくお願ひしたいと思います。

○**会長** ありがとうございます。ただいま、進め方についての日程を大体ご紹介いただいたのですが、この件について何か質問はございますでしょうか。

○**委員** 日程は1カ月くらい前に教えていただけますか。

○**事務局** 遅くとも1カ月前にはお知らせしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○**委員** 時間帯は今日と同じ午後7時からということでしょうか。

○**事務局** 会長や副会長と相談したいと思うのですが、基本的には午後7時からという路線がありますが、場合によってはもう少し早まる可能性もあつたり、例えば午後6時半とか。

○**委員** 2月とかは、賀詞交換会とか多いので、早いともう絶対出られない、ほとんど毎日そういう各種団体がある。それはこちらの都合なので、やっていただくのは問題ありませんが、その場合は欠席になります。

○**事務局** 一応午後7時ということで開催させていただき予定で、特段、変わることがあればその都度通知でご連絡させていただきたいのでよろしくお願ひします。

○**会長** ほかはいかがでしょうか。日程についてはまた細かく事務局から日程調整とかについてはご連絡いただけるようです。

【その他】

○**会長** それでは次第の11、その他ですけれども、まず皆様から何か最後に今日言っておかなければいけない、言い残したということがありましたらご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○**委員** できれば審議会で取り扱う内容について1カ月前に日程をお知らせいただくと、大体どんな話をするのかというのが、項目を教えていただければ、事前に勉強したりとかもできたらよろしいのかなど。そんなことが可能であればお願ひしたいなと思っています。さっきの話の中で、資料の整理というのが次回、お渡しいただけることを聞きましたので、次回はその続きのお話を伺えればなと思っています。

○**会長** 事前に内容とかもう少し細かく教えてほしいと。

○**委員** そうですね。

○**会長** ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

(「なし」との声あり)

○会長 それでは、事務局からそのほかの事項をよろしくお願いたします。

○事務局 お知らせが5点ございます。

まず1点目といたしましては、報酬のお支払いについてでございますが、本日、皆様から委任状を提出いただいておりますので、出席されました皆様のご本人名義の指定口座に、会議終了後おおむね1カ月以内にお振り込みさせていただきますので、ご承知おきください。

2点目でございます。本日、審議会が設置されましたので、11月21日号の『広報ふらゆう』で委員の皆様のお名前と住所ですね、府中市にお住いの方については何々町、府中市外にお住いの方については何々市まで、お名前とそこまでを掲載させていただきまして、審議会の委員の委嘱について周知をさせていただきたいと思っておりますので、ご承知おきください。

3点目でございます。先ほどもご説明させていただいたところですが、本日審議会の会議録ということで録音させていただいております。会議録につきましては事務局で作成をいたしまして、委員の皆様にご確認をいただいた上で、市のホームページや市政情報公開室などで公開をしてみたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

4点目でございます。本日の会議の開催通知は府中市長の名前で文書を発送させていただいておりますが、今後の会議に係る通知類につきましては、会長様のお名前でお知らせさせていただきますので、ご承知おきください。

最後、5点目でございます。次回の第2回審議会は、平成29年2月に開催をする予定ですが現在のところ日時が確定してございません。今後、日程が確定した後に、おおむね1カ月前までには開催通知を送付させていただきますのでよろしくお願いたします。

なお、委員の皆様におかれましては、次回よりさまざまなご意見をいただきたいと存じますが、限られた回数の審議会でございます、今回の計画改定に当たりまして、ご意見・アイデア等ございましたら、この段階でもお持ちの方がおられましたら、早目に、できれば簡単な資料なども添えて、ぜひ事務局にご提出をいただければ大変ありがたいと考えてございます。次回以降の会議でその資料を事務局で複製して資料としての配付をしたりとかさせていただきます、会議でまたご議論をいただきたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願いたします。

以上、5点でございます。どうぞよろしくお願いたします。

○会長 どうもありがとうございました。ご質問等よろしいでしょうか。

それでは、本日の議題はこれで終了となります。皆様方からたくさんご意見を今日も既いただいたのですが、例えば生ごみ関係の話とか、それからベンチマークとか指標の話とか、単位をわかりやすくということ、それから組成の内容について細かく、それから事前に調査といういろいろな調べていただいてごみのポストの話とか、あと最後のほうですけれども建設関係からはいろいろな、こんなふうにとったらどうだろうかというアイデア出しなどしていただいております。

さまざまなご意見いただいておりますので、市のほうで今日出た意見について十分に反映していただいて今後進めていただければと思っております。

それからご紹介のように何かありましたらぜひ出していただければと思っております。

次回から一般廃棄物処理基本計画改定にかかわる実質的な議論ということになるかと思

ます。資料を事前に、案を早目に送っていただけるかと思しますので、十分にお目通しいただいて積極的に意見・コメントなどをしていただければと思っております。

それでは、長い時間ではございましたけれども、本日はこれで閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

午後8時42分閉会